

# 外科学第二

## 1-1 構成員

平成29年3月31日現在

教授	1人
病院教授	0人
准教授	1人
病院准教授	0人
講師(うち病院籍)	2人 (2人)
病院講師	0人
助教(うち病院籍)	5人 (2人)
診療助教	4人
特任教員(特任教授、特任准教授、特任助教を含む)	0人
医員	11人
研修医	0人
特任研究員	0人
大学院学生(うち他講座から)	11人 (0人)
研究生	0人
外国人客員研究員	0人
技術職員(教務職員を含む)	0人
その他(技術補佐員等)	2人
合 計	37人

## 1-2 教員の異動状況

竹内裕也	教授	(平成29年3月1日～現職)
海野直樹	准教授	(平成25年7月1日～平成29年3月31日)
坂口孝宣	講師	(平成20年7月1日～現職)
神谷欣志	講師	(平成25年8月1日～現職)
倉地清隆	助教	(平成15年4月1日～平成19年3月31日 助手;平成19年4月1日～現職)
山本尚人	助教	(平成17年5月1日～平成19年3月31日 助手;平成19年4月1日～平成29年3月31日)
平松良浩	助教	(平成22年9月1日～平成24年1月31日 診療助教;平成24年2月1日～現職)
菊池寛利	助教	(平成24年4月1日～現職)
犬塚和徳	助教	(平成25年9月1日～現職)
森田剛文	診療助教	(平成24年7月1日～現職)
山本真義	診療助教	(平成25年10月1日～現職)
原田岳	診療助教	(平成26年10月1日～現職)
柴崎泰	診療助教	(平成27年4月1日～現職)

## 2 講座等が行っている研究・開発等

1	(1) 研究・開発等のテーマ名	定量位相顕微鏡を用いた新規血中循環腫瘍細胞検出器の開発
	(2) 研究・開発等の背景、目的、内容の概略	血中循環腫瘍細胞(CTC)とは、原発腫瘍組織または転移腫瘍組織から遊離し循環血液中へ浸潤した細胞と定義され、固形癌患者の末梢血中に微量存在する。この中には遠隔臓器への高い転移能を有する上皮間葉転換(EMT)を生じた細胞も存在すると考えられ、近年注目を浴びている。しかし従来のCTC検出方法の多くは細胞表面マーカーを指標に選別しており、EMTを生じた細胞も含めCTCを漏れなく回収することは難しい。本研究は、浜松ホトニクスとの共同研究であり、表面マーカーに依存しない新たなCTC選別方法の開発を目的とする。
	(3) 前年度までの状況	浜松ホトニクスの有する定量位相顕微鏡技術を用いて、健常人の白血球および各種消化器癌細胞株の位相像を非染色で撮影し、癌細胞株をCTC候補として白血球から識別するアルゴリズムを確立した。平成27年度には、細胞を流しながら撮影する手法を確立し、細胞の識別精度も向上させることに成功した。
	(4) 当該年度内の進捗	平成28年度には、細胞を流しながら定量位相画像と蛍光顕微鏡画像を同時撮影する手法を確立し、この細胞識別手法を検証した。シースフローを用いて細胞を直線化して流すことにより、流路中における細胞の重なりが減り、有核細胞の観察の効率が向上したが、流路系や光学システムの改善など課題が明らかとなった。
	(5) 翌年度の方針と予想	平成29年度も流路系や位相差顕微鏡観察技術の改良・開発を継続して行い、実際の癌患者の血液を用いて、CTCの検出を試みる。
2	(1) 研究・開発等のテーマ名	miRNA発現変化を介した大腸癌肝転移機構の解析
	(2) 研究・開発等の背景、目的、内容の概略	大腸癌の予後規定因子として肝転移の有無は重要であり、大腸癌肝転移機構の解明は、新規治療標的の同定や治療成績向上に向け重要な課題である。マイクロRNA(miRNA)は細胞内の様々な生理現象を調整しており、発癌や癌の進展にも関与していることが知られているが、消化器癌の転移機構への関与は十分に解明されていない。また、癌の転移において、腫瘍微小環境を構成する腫瘍周囲間質細胞の関与も重要であり、腫瘍細胞のみならず、腫瘍周囲間質におけるmiRNAの重要性も報告されている。本研究は、大腸癌組織中の癌細胞および腫瘍周囲間質におけるmiRNAが、肝転移形成に与える影響を明らかにすることを目的とする。
3	(1) 研究・開発等のテーマ名	大腸癌肝転移における脂肪酸代謝の役割と新たな肝転移制御戦略の確立
	(2) 研究・開発等の背景、目的、内容の概略	近年の分子標的治療薬の発展に伴い大腸癌肝転移症例の治療成績は飛躍的に向上した。しかし、現行の増殖シグナル阻害を中心とした治療法では、代替経路の活性化による悪性形質獲得などの問題点が次々と明らかになってきており、新たな知見に基づいた治療戦略の構築が求められている。近年癌細胞における脂肪酸代謝の重要性が明らかとなり、Seed and Soil 説に基づく転移との関連も示唆されている。本研究では大腸癌肝転移における脂肪酸酸化の役割を肝転移マウスモデルおよび臨床検体を用いて明らかにし、エネルギー代謝を標的とした新たな肝転移制御戦略の構築へのbreakthrough とすることを目的とする。

	(1)研究・開発等のテーマ名
	消化器外科領域手術周術期における診察指装着型オキシメータを用いた消化管・肝臓の血流評価
4	(2)研究・開発等の背景、目的、内容の概略
	従来の消化器系臓器血流評価法(Doppler超音波法、Laser血流計、ICG近赤外線観察法)はその煩雑性、反復困難性で課題が多かった。診察指装着型オキシメータ(トッカーレ: ASTEM Co.,Ltd.)は近赤外分光法の原理で誰でも簡便に、数秒程度の短時間で血流(脳組織酸素飽和度(rSO2)、総ヘモグロビン量(T-HbI))評価が可能である。現在同機器は、経膈的胎児脳血流評価に用いられ、保険認可がされているが、消化器系臓器血流評価には一般的でない。 本研究の目的は、①診察指装着型オキシメータによって消化管・肝の血流正常値を導き出すこと、②消化管吻合を伴う手術の場合、吻合部近傍血流値と術後縫合不全の関連性について検討すること、である。 消化管疾患(悪性腫瘍、炎症性腸疾患、腸閉塞など)で消化管切除手術を施行予定の患者、もしくは肝胆膵系疾患で肝切除を施行予定の患者を対象とし、診察指装着型オキシメータのセンサー部分を対象臓器に軽く接触させることで臓器血流を測定する。
	(1)研究・開発等のテーマ名
	MRIを用いた腹部大動脈の血流解析
5	(2)研究・開発等の背景、目的、内容の概略
	腹部大動脈瘤
	(3)前年度までの状況
	MRIを用いて、①腹部大動脈瘤(AAA)における乱流の評価、②AAAに対するステントグラフト内挿術(EVAR)後のエンドリーク(瘤内への血液の漏れ)の評価について報告した。
	(4)当該年度内の進捗
	AAAに対するEVARは、開腹人工血管置換術に比べ再手術が多い。その原因のひとつがエンドリークである。MRIを用いてエンドリークを詳細に分析し、再手術の可能性の高い症例を予測できるようになった。
	(5)翌年度の方針と予想
	EVAR術後のエンドリーク解析例を増やし、③再手術の可能性の高い症例が予測可能であることを報告する。
6	(1)研究・開発等のテーマ名
	二次性リンパ浮腫の病態解明、進行度評価方法の確立、薬物治療の開発
	(2)研究・開発等の背景、目的、内容の概略
	癌手術後や放射線治療後にリンパ浮腫が発症するが、薬物治療は行われていない。皮膚線維芽細胞、ラットモデル、リンパ浮腫症例を対象とし、リンパ浮腫の病態解明、検査方法、薬物治療を確立する。

### 3 論文、症例報告、著書等

	平成28年度
(1)原著論文数(うち和文のもの)	14編 ( 1編 )
そのインパクトファクターの合計	32.498
(2)論文形式のプロシーディングズ及びレター	0編
そのインパクトファクターの合計	0.000
(3)総説数(うち和文のもの)	1編 ( 1編 )
そのインパクトファクターの合計	0.000
(4)著書数(うち和文のもの)	1編 ( 1編 )
(5)症例報告数(うち和文のもの)	6編 ( 3編 )
そのインパクトファクターの合計	1.460

**(1) 原著論文****A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの**

	筆頭著者, 共著者: タイトル, 雑誌名, 巻, 初頁-終頁, 掲載年.	IF
1.	Konno H, Kamiya K, Kikuchi H, Miyata H, Hirahara N, Gotoh M, Wakabayashi G, Ohta T, Kokudo N, Mori M, Seto Y. Association between the participation of board-certified surgeons in gastroenterological surgery and operative mortality after eight gastroenterological procedures. Surg. Today, 47(5):611-618, 2017	1.329
2.	Sano M, Unno N, Sasaki T, Baba S, Sugisawa R, Tanaka H, Inuzuka K, Yamamoto N, Sato K, Konno H. Topologic distributions of vasa vasorum and lymphatic vasa vasorum in the aortic adventitia - Implications for the prevalence of aortic diseases. Atherosclerosis. 247:127-34. 2016	3.942
3.	Sugisawa R, Unno N, Saito T, Yamamoto N, Inuzuka K, Tanaka H, Sano M, Katahashi K, Uranaka H, Marumo T, Konno H: Effects of compression stockings on elevation of leg lymph pumping pressure and improvement of quality of life in healthy female volunteers: a randomized controlled trial. Lymphat Res Biol. 14 :95-103, 2016.	1.758
4.	Hiraide T, Ikegami K, Sakaguchi T, Morita Y, Hayasaka T, Masaki N, Waki M, Sugiyama E, Shinriki S, Takeda M, Shibasaki Y, Miyazaki S, Kikuchi H, Okuyama H, Inoue M, Setou M, Konno H. Accumulation of arachidonic acid-containing phosphatidylinositol at the outer edge of colorectal cancer. Sci Rep 6, article number 29935, 2016. Doi: 10.1038/srep29935	5.228
5.	Sakata M, Takehara Y, Katahashi K, Sano M, Inuzuka K, Yamamoto N, Sugiyama M, Sakahara H, Wakayama T, Alley MT, Konno H, Unno N. Hemodynamic Analysis of Endoleaks After Endovascular Abdominal Aortic Aneurysm Repair by Using 4-Dimensional Flow-Sensitive Magnetic Resonance Imaging. Circ J. 80(8):1715-25. 2016	4.124
6.	山本尚人, 海野直樹, 犬塚和徳, 佐野真規, 斉藤貴明, 杉澤良太, 片橋一人, 矢田達朗, 嘉山貴文. 当院における術後・入院中に発症した有症状静脈血栓塞栓症症例の検討. 静脈学 27巻1号 Page13-20(2016.02)	0.000

論文数(A)小計 6 うち和文 1 IF小計 16.381**B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの(学内の共同研究)**

	筆頭著者, 共著者: タイトル, 雑誌名, 巻, 初頁-終頁, 掲載年.	IF
1.	Takaku Y, Suzuki H, Kawasaki H, Ohta I, Ishii D, Hirakawa S, Tsutsui T, Matsumoto H, Takehara S, Nakane C, Sakaida K, Suzuki C, Muranaka Y, Kikuchi H, Konno H, Shimomura M, Hariyama T: A modified 'NanoSuit®' preserves wet samples in high vacuum: direct observations on cells and tissues in field-emission scanning electron microscopy. R Soc Open Sci. 4(3), 160887, 2017	0.000
2.	Tanaka H, Yamamoto N, Suzuki M, Mano Y, Sano M, Zaima N, Sasaki T, Setou M, Unno N. Insufficient Lymph Drainage Causes Abnormal Lipid Accumulation and Vein Wall Degeneration. Ann Vasc Dis;9(4):277-284, 2016	0.960
3.	Tanaka H, Zaima N, Sasaki T, Yamamoto N, Inuzuka K, Sano M, Konno H, Urano T, Setou M, Unno N. Haracteristic Distribution Pattern of Lysophosphatidylcholine in Fibromuscular Dysplasia-Associated Visceral Artery Aneurysms Compared with Atherosclerotic Visceral Artery Aneurysms. J Atheroscler Thromb 2016 23(6):673-80.	2.411

論文数(B)小計 3 うち和文 0 IF小計 3.371**C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの**

	筆頭著者, 共著者: タイトル, 雑誌名, 巻, 初頁-終頁, 掲載年.	IF
1.	Kunisaki C, Miyata H, Konno H, Saze Z, Hirahara N, Kikuchi H, Wakabayashi G, Gotoh M, Mori M: Modeling preoperative risk factors for potentially lethal morbidities using a nationwide Japanese web-based database of patients undergoing distal gastrectomy for gastric cancer. Gastric Cancer. 20(3), 496-507, 2017	4.404
2.	Kugo H, Zaima N, Tanaka H, Mouri Y, Yanagimoto K, Hayamizu K, Hashimoto K, Sasaki T, Sano M, Yata T, Urano T, Setou M, Unno N, Moriyama T. Adipocyte in vascular wall can induce the rupture of abdominal aortic aneurysm. Sci Rep. 2016 Aug 8;6:31268.	5.228
3.	Kugo H, Zaima N, Tanaka H, Urano T, Unno N, Moriyama T. The effects of nicotine administration on the pathophysiology of rat aortic wall. Biotech Histochem. 92(2):141-148.2017	1.078
4.	Kugo H, Zaima N, Tanaka H, Mouri Y, Yanagimoto K, Urano T, Unno N, Moriyama T. The preventive effect of fish oil on abdominal aortic aneurysm development. Bioscience, Biotechnology, and Biochemistry 80(6):1186-91, 2016	1.176
5.	Kimura H, Takahashi K, Futami K, Ikeuchi H, Tatsumi K, Watanabe K, Maeda K, Watadani Y, Nezu R, Kameyama H, Nakao S, Kurachi K, Hotokezaka M, Otsuka K, Watanabe T, Ozawa H. Has widespread use of biologic and immunosuppressant therapy for ulcerative colitis affected surgical trends? Results of a questionnaire survey of surgical institutions in Japan. Surg Today. 2016	0.860

論文数(C)小計 5 うち和文 0 IF小計 12.746**(3) 総説****A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの**

	筆頭著者, 共著者: タイトル, 雑誌名, 巻, 初頁-終頁, 掲載年.	IF
1.	坂口孝宣, 今野弘之:【特集 最新 肝胆膵高難度外科手術アトラス II. 高難度外科手術手技 C. 膵臓】膵癌手術における動脈切除・再建 手術 70 (4): 555-562, 2016.	0.000

総説数(A)小計 1 うち和文 1 IF小計 0.000

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの(学内の共同研究)

総説数(B)小計  0  うち和文  0  IF小計  0.000

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

総説数(C)小計  0  うち和文  0  IF小計  0.000

(4) 著書

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

著者: タイトル, 出版社名, 巻, 初頁-終頁(頁数), 発行年.		IF
1.	山本尚人, 静脈血栓症患者での使い方. 肺塞栓症を合併した患者の場合. 「超実践的 抗凝固薬の使い方」, メディカ出版, p135-138	

著書数(A)小計  1  うち和文  1

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの(学内の共同研究)

著書数(B)小計  0  うち和文  0

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

著書数(C)小計  0  うち和文  0

(5) 症例報告

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

筆頭著者, 共著者: タイトル, 雑誌名, 巻, 初頁-終頁, 掲載年.		IF
1.	Unno N, Yamamoto N, Higashiura W, Inuzuka K, Sano M, Konno H. Preloaded fenestrated graft accelerated celiac axis access in thoracoabdominal aneurysm repair. Asia cardiovascular Thorac Ann 2016 Sep;24(7):699-702	0.500
2.	Saito T, Tanaka H, Yamamoto N, Inuzuka K, Sano M, Unno N. Surgical Treatment of Abdominal Aortic Aneurysm with Congenital Solitary Pelvic Kidney and Superior Mesenteric Artery Stenosis. Ann Vasc Dis. 9(3):216-219. 2016	0.960
3.	菊池寛利, 神谷欣志, 村上智洋, 川端俊貴, 平松良浩, 今野弘之: 胸部食道癌術後再建結腸の著明な拡張から壊死を生じ緊急手術を行った1例. 手術 70(6), 809-13, 2016.	0.000
4.	古橋暁, 坂口孝宣, 木内亮太, 柴崎泰, 菊池寛利, 今野弘之: 術中ICG蛍光観察を活用した腹腔鏡下肝切除後肝細胞癌腹膜再発の1例日臨外会誌 77 (11), 2753-2759-767, 2016	0.000
5.	嘉山貴文, 山本 尚人, 佐野 真規, 矢田 達朗, 片橋 一人, 杉澤 良太, 斉藤 貴明, 犬塚 和徳, 海野 直樹. 巨大膝窩動脈瘤に対して内側・後方アプローチが有用であった1例. 血管外科 35巻1号 Page85-89. 2016	0.000

症例報告数(A)小計  5  うち和文  3  IF小計  1.460

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの(学内の共同研究)

筆頭著者, 共著者: タイトル, 雑誌名, 巻, 初頁-終頁, 掲載年.		IF
1.	Misawa K, Kawasaki H, Endo S, Mochizuki D, Morita K, Hashimoto Y, Misawa Y, Kikuchi H, Kanazawa T, Iwashita T, Mineta H: Primary combined small and squamous cell carcinoma of the hypopharynx: A case report. Mol Clin Oncol. 4(5):709-14, 2016.	0.000

症例報告数(B)小計  1  うち和文  0  IF小計  0.000

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

症例報告数(C)小計  0  うち和文  0  IF小計  0.000

4-1 特許等の知的財産権の取得状況

	平成28年度
特許等取得数(出願中含む)	3 件

1.	(特許登録) 発明者(代表者): 海野直樹 発明の名称: 蛍光検知装置 登録番号: 第6094987号 登録日: 2017年2月24日
2.	(特許登録) 発明者(代表者): 海野直樹 発明の名称: 蛍光検知装置 登録番号: ZL201380010232.9 登録日: 2017年3月01日

(特許登録)

発明者(代表者): 海野直樹

3. 発明の名称: リンパ圧測定システム及びその制御方法

登録番号: US9,597,031

登録日: 2017年3月21日

#### 4-2 薬剤、医療機器等の実用化、認証、承認、製品化、販売等の状況

	平成28年度
実用化、認証、承認、製品化、販売数	0 件

#### 5 医学研究費取得状況

	平成28年度	
	件数	金額 (万円未満四捨五入)
(1) 科学研究費助成事業(文部科学省、日本学術振興会)	15 件	2,000 万円
(2) 厚生労働科学研究費	2 件	946 万円
(3) 日本医療研究開発機構(AMED)による研究助成	1 件	312 万円
(4) 科学技術振興機構(JST)による研究助成	0 件	0 万円
(5) 他政府機関による研究助成	1 件	331 万円
(6) 財団助成金	0 件	0 万円
(7) 受託研究または共同研究	1 件	100 万円
(8) 奨学寄附金	13 件	1,098 万円

##### (1) 科学研究費助成事業(文部科学省、日本学術振興会)

1.	海野直樹(代表), 山本尚人(分担), 基盤研究(B), 二次性リンパ浮腫動物モデルの作製と治療法の開発, 平成26年度~平成28年度	380万円
2.	今野弘之(代表), 平松良浩(分担), 神谷欣志(分担), 基盤研究(B), 血中循環腫瘍細胞の新規検出方法開発と臨床応用, 平成27年度~平成29年度	430万円
3.	竹内裕也(代表), 基盤研究(C), ケモカインネットワークを標的とした食道癌新規悪性度診断と治療法の開発, 平成27年度~平成29年度	50万円
4.	海野直樹(分担), 基盤研究(C), 病態解明を目指したリンパ浮腫における慢性炎症メカニズムの研究, 平成28年度~平成31年度(研究代表者)岡山大学形成外科 木股敬裕	20万円
5.	坂口孝宣(代表), 森田剛文(分担), 基盤研究(C), 門脈塞栓術後肝再生への脂質の関与, 平成28年度~平成30年度	170万円
6.	神谷欣志(代表), 基盤研究(C), 高解像度マノメトリーを用いた食道癌術後嚥下機能評価, 平成27年度~平成29年度	40万円
7.	倉地清隆(代表), 今野弘之, 山本真義(分担), 基盤研究(C), CACの発癌過程におけるSirtuinの関与, 平成26年度~平成28年度	90万円
8.	山本尚人(代表), 海野直樹(分担), 基盤研究(C), 浮腫におけるPhlebolymphedemaの病態解明, 平成26年度~平成28年度	120万円
9.	菊池寛利(代表), 基盤研究(C), miRNA発現変化を介した消化器悪性腫瘍肝転移機構の解析, 平成27年度~平成29年度	130万円
10.	犬塚和徳(代表), 海野直樹(分担), 基盤研究(C), 腹部大動脈瘤の瘤壁における刷り応力と血管新生、リンパ管新生との関連について, 平成26年度~平成28年度	120万円
11.	山本真義(代表), 今野弘之, 菊池寛利(分担), 基盤研究(C), 大腸癌肝転移における脂肪酸代謝の役割と新たな肝転移制御戦略の確立, 平成26年度~平成28年度	110万円
12.	今野弘之, 平松良浩, 菊池寛利(分担), 基盤研究(C), 定量位相顕微鏡を用いた新規CTC(血中循環腫瘍細胞)検出器の開発, 平成26年度~平成28年度(研究代表者)感染対策室 川端俊貴	30万円
13.	海野直樹(代表), 犬塚和徳, 山本尚人(分担), 挑戦的萌芽研究, 腹部大動脈瘤術後2型エンドリークに対する血行動態学的予後予測因子の探索的研究, 平成28年度~平成30年度	120万円
14.	森田剛文(代表), 若手研究(B), 質量顕微鏡を用いた肝癌微小環境における脂質合成・代謝経路の解析, 平成25年度~平成28年度	30万円
15.	原田岳(代表), 若手研究(B), クローン病腸管粘膜におけるLPCAT3の機能解析, 平成27年度~平成28年度	160万円

##### (2) 厚生労働科学研究費

1.	今野弘之(代表), 手術療法の標準化に向けた消化器外科専門医育成に関する研究, 平成26年度~平成28年度	936万円
----	---	-------

2.	今野弘之(分担), 全国がん登録と連携した臓器がん登録による大規模コホート研究の推進及び高質診療データベースの為にNCD長期予後入力システムの構築に関する研究, 平成27年度～平成29年度,(研究代表者)北海道公立大学法人札幌医科大学客員教授平田公一	10万円
<b>(3) 日本医療研究開発機構(AMED)による研究助成</b>		
1.	菊池寛利(分担),三次元像フローサイトメーター基盤技術の開発, 平成28年度～平成30年度,(研究代表者)浜松ホトニクス(株)山田秀直	312万円
<b>(5) 他政府機関による研究助成</b>		
1.	海野直樹, 公益社団法人日本医師会治験促進センター, インドシアニングリーンを用いたリンパ管蛍光造影法の四肢リンパ浮腫診断の有効性の検証, 平成27年度～平成28年度	331万円
<b>(7) 受託研究または共同研究</b>		
1.	(共同研究) 海野直樹, K-134の腹部大動脈瘤に対する有用性の検討, 興和株式会社, 平成27年度～平成28年度	100万円

## 6 大型プロジェクトの代表, 総括

## 7 学会活動

	(1) 国際学会	(2) 国内学会
1) 基調講演・招待講演回数	1 件	1 件
2) シンポジウム発表数	2 件	7 件
3) 学会座長回数	0 件	3 件
4) 学会開催回数	0 件	0 件
5) 学会役員等回数	1 件	42 件
6) 一般演題発表数	6 件	

### (1) 国際学会等開催・参加

#### 1) 国際学会・会議等における基調講演・招待講演

1.	Sakaguchi T, ICG fluorescence in surgery. (in session “New technology”) Clinical Robotic Surgery Association 2016, Daegu, Korea, 平成28年10月
----	---

#### 2) 国際学会・会議等でのシンポジウム発表

1.	Kikuchi H, Cytoreductive surgery for gastric GIST. Korea International Gastric Cancer Week 2016 Seoul, Korea. 平成28年4月
2.	Kikuchi H, Laparoscopic narrow-band imaging for the diagnosis of peritoneal metastasis in gastric cancer. 2nd Triangle Symposium of the Poland-Hungary-Japan Surgical Society, Lublin, Poland. 平成28年6月

#### 5) 役職についている国際学会名とその役割

1.	竹内裕也 The International Society for Diseases of the Esophagus (ISDE) Executive Committee
----	---

### 6) 一般発表

#### 6-1) 口頭発表

1.	Kikuchi H, Laparoscopic narrow-band imaging for the diagnosis of peritoneal metastasis in gastric cancer. 40th World Congress of the International College of Surgeons, 京都, 平成28年10月
2.	Inuzuka K, Hemodynamic studies of superior mesenteric arteries to identify underlying causes of the spontaneous isolated dissections using flow-sensitive four-dimensional magnetic resonance imaging. 27th World Congress of the International Union of Angiology. Lyon, France, 平成28年10月
3.	Saito T. Low lymphatic pumping pressure in the legs is associated with leg edema and lower quality of life in healthy volunteers. 27th World Congress of the International Union of Angiology. Lyon, France. 平成28年10月
4.	Katahashi K., Hemodynamic analysis of endoleak with multiple types after endovascular abdominal aortic aneurysm repair by using four-dimensional flow-sensitive magnetic resonance imaging. 27th World Congress of the International Union of Angiology. Lyon, France. 平成28年10月

#### 6-2) ポスター発表

1.	Kikuchi H, Iino I, Miyazaki S, Ozaki Y, Hiramatsu Y, Ohta M, Kamiya K, Sakaguchi T, Konno H. Differential miRNA expressions between gastric and metastatic liver gastrointestinal stromal tumors. 69th Society of Surgical Oncology Annual Cancer Symposium Boston, MA, USA. 平成28年4月
2.	Kikuchi H, Microarray Analysis of Gastrointestinal Stromal Tumor-Originated Spheroids. AACR 107th Annual Meeting New Orleans, LA, USA. 平成28年4月

**(2)国内学会の開催・参加**

**1)学会における特別講演・招待講演**

1.	菊池寛利, GIST診療における外科医の役割ー初発GISTから再発GISTに対する集学的治療までー, 第116回日本外科学会定期学術集会, 大阪, 平成28年4月
----	---

**2)シンポジウム発表**

1.	山本尚人, Stage II大腸癌におけるさらなるハイリスク因子としての凝固・炎症系, 第78回日本臨床外科学会総会, 東京, 平成28年11月
2.	山本尚人, 悪性腫瘍治療中に有症状静脈血栓塞栓症を合併した症例の予後, 第54回日本癌治療学会総会, 横浜, 平成28年10月
3.	山本尚人, 悪性腫瘍を合併した静脈血栓塞栓症患者における予後と血栓症因子関連, 第36回日本静脈学会総会, 弘前, 平成28年6月
4.	平松良浩, 胃体上部早期胃癌に対する噴門側胃切除間置空腸再建術, 日本臨床外科学会総会, 品川, 平成28年12月
5.	平松良浩, da Vinci Xi Surgical Systemによるロボット支援下胃切除術の導入, 日本内視鏡外科学会総会, 横浜, 平成28年12月
6.	菊池寛利, 胃GISTの肝転移におけるマイクロRNA発現変化の解析, 第27回日本消化器癌発生学会総会, 鹿児島, 平成28年9月
7.	犬塚和徳, 前腕の尺側皮静脈転位による透析用ブラッドアクセスの早期成績, 第36回日本静脈学会総会, 弘前, 平成28年6月

**3)座長をした学会名**

1.	坂口孝宣, 第71回日本消化器外科学会総会一般演題(ポスター)肝臓:悪性1, 徳島, 平成28年7月
2.	坂口孝宣, JDDW2016(デジタルポスターセッション 胃19), 神戸, 平成28年10月
3.	阪田麻裕, 第71回日本消化器外科学会総会一般演題(ポスター)炎症性腸疾患:その他(若手座長), 徳島, 平成28年7月

**5)役職についている国内学会名とその役割**

1.	竹内裕也 日本消化器外科学会 評議員, 国際委員 日本食道学会 評議員, 食道癌診療ガイドライン委員, 広報委員, 国際委員, 研究推進委員, 食道癌取扱い規約委員会オブザーバー, 機関誌Esophagus編集委員 日本内視鏡外科学会 評議員, 内視鏡外科ガイドライン(食道領域)委員, COI委員 日本癌治療学会 代議員, 幹事, 総務委員, 広報・渉外委員, がん診療ガイドライン統括・連絡委員 日本癌学会 評議員 日本胃癌学会 代議員, プログラム委員 日本胸部外科学会 国際委員 日本消化器病学会 雑誌邦文誌編集委員 日本創傷治癒学会 ガイドライン作成ワーキンググループ委員 食道・胃外科フォーラム 代表幹事
2.	海野直樹 日本心臓血管外科学会 評議員 日本血管外科学会 評議員 日本脈管学会 評議員 日本静脈学会 評議員 日本リンパ学会 評議員
3.	坂口孝宣 日本消化器外科学 評議員 日本肝胆膵外科学会 評議員 日本臨床外科学会 評議員 日本腹部救急医学会 評議員
4.	神谷欣志 日本食道学会 評議員 日本胃癌学会 代議員 日本消化器外科学会 NCDデータ品質管理小委員会委員, プロジェクト管理小委員会委員
5.	山本尚人 日本血管外科学会 評議員 日本静脈学会 評議員 日本血栓止血学会 代議員
6.	平松良浩 日本内視鏡外科学会評議員

**8 学術雑誌の編集への貢献**

	(1)外国	(2)国内
学術雑誌編集数(レフリー数は除く)	0件	0件

**(3)国内外の英文雑誌のレフリー**

1.	竹内裕也 Journal of Gastroenterology 1回 World Journal of Surgery 1回 Surgery Today 1回 Gastric Cancer 1回
----	---



2.	海野直樹	Thrombosis Journal 1回 Circulation Journal 3回 Annals of Vascular Disease 3回 Surgery Today 1回
3.	坂口孝宣	Digestive Surgery 2回 World J of gastroenterology 2回 World J of gastrointestinal Pathology 1回 Therapeutics and Clinical Risk Management 1回 Postgraduate medicine 1回
4.	菊池寛利	Asian J Endosc Surg 1回 Cancer Immunol Immun 1回 Carcinogenesis 1回 Clin J Gastroenterol 2回 Epigenomics 1回 Gastric Cancer 1回 Gastroenterol Res Pract 2回 Int J Cancer 2回 Int J Pept Res Ther 1回 Oncotarget 1回 Transl Cancer Res 1回

### 9 共同研究の実施状況

	平成28年度
(1)国際共同研究	0 件
(2)国内共同研究	0 件
(3)学内共同研究	0 件

### 10 産学共同研究

	平成28年度
産学共同研究	0 件

### 11 受賞

### 12 新聞, 雑誌, インターネット等による報道

### 13 その他の業績